

大豆におけるハスモンヨトウの動向に注意しましょう！

8月中旬現在、ハスモンヨトウの発生が県内広範囲で見られます。

県内6地点で調査を行っているハスモンヨトウ成虫(写真1)のフェロモントラップへの誘殺数は、8月第2半旬時点で平年並~やや多い状況でしたが、8月15~16日の大豆ほ場における見取り調査(県内15地点平均)では、ハスモンヨトウ幼虫(写真2)の発生ほ場率は平成22年、23年同様に平年より高く(本年37%、平年20%)、県内の広範囲で幼虫の発生が見受けられました(図)。

また、今回の調査では若齢~中齢幼虫が中心に見られましたが、県北では幼虫の発生は確認できなかったものの若齢幼虫が食害した白変葉(写真3)が見られるほ場もあります。

向こう1か月の平均気温は高く降水量は少ないと予想され、発生の阻害要因が小さいため、今後の発生増加が懸念されます。下記のとおり、早期に適切な防除を行うとともに、今後の発生の動向に十分留意しましょう。

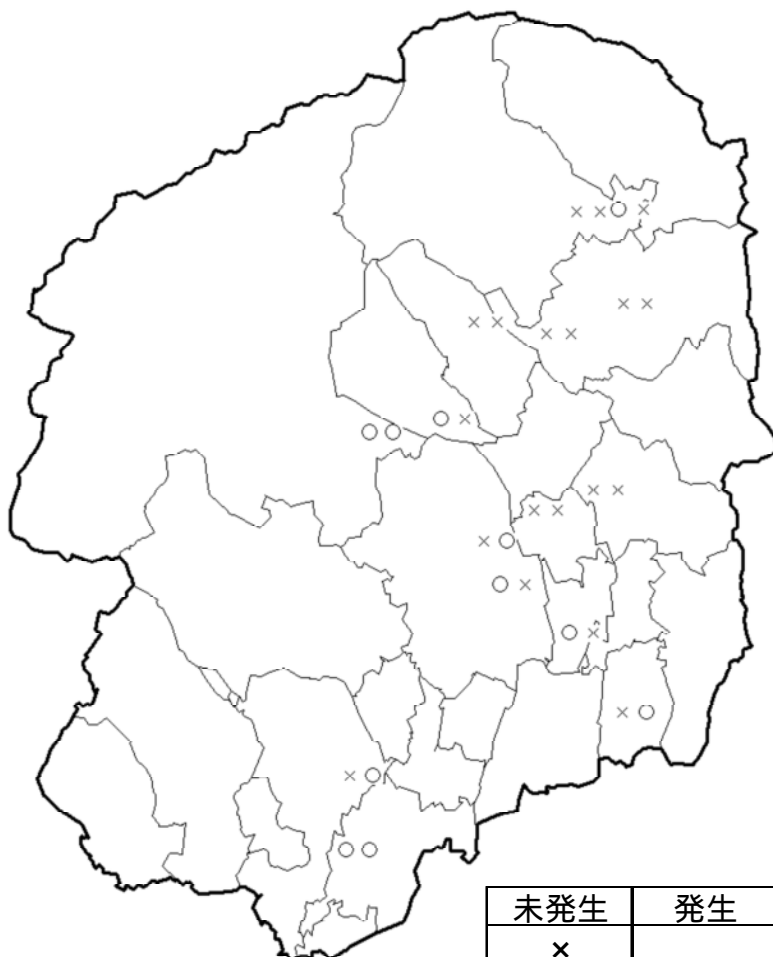


図 ハスモンヨトウ幼虫の地点別発生状況



写真1 成虫



写真2 若齢幼虫の集団



写真3 白変葉

【防除対策】

- ・ 幼虫が集団でいるうちに、葉ごと摘み取り処分する。
- ・ 幼虫の齢期が進むと防除効果が低下するので、若齢幼虫が集団でいるうちに下記を参考に薬剤防除する。薬剤抵抗性の発達を防止するため、同一系統の薬剤は連用しない。

大豆のハスモンヨトウに登録のある主な薬剤（平成24年8月17日現在）

表1 発生初期(若齢幼虫中心)の場合

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期 / 本剤の使用回数	成分 / 成分の総使用回数
IGR系			
マトリックフロアブル	2000～3000倍	収穫前日まで / 3回以内	クロマフェノジド / 3回以内
カスケード乳剤	4000倍	収穫7日前まで / 2回以内	フルフェノクスロン / 2回以内
アタブロン乳剤	2000～4000倍	収穫14日前まで / 2回以内	クロルフルアズロン / 2回以内
ノーモルト乳剤	2000倍	収穫14日前まで / 2回以内	テフルベンズロン / 2回以内
BT剤			
ゼンターリ顆粒水和剤 <豆類(種実)>	1000倍	発生初期 但し、収穫前日 まで / -	BT / -
フローバックDF	1000倍	発生初期 但し、収穫前日 まで / -	BT / -
合成ピレスロイド系			
トレボンEW	1000倍	収穫14日前まで / 2回以内	エトフェンプロックス / 2回以内
トレボン乳剤	1000倍	収穫14日前まで / 2回以内	エトフェンプロックス / 2回以内
トレボン粉剤DL <豆類(種実)>	4kg/10a	収穫14日前まで / 2回以内	エトフェンプロックス / 2回以内

表2 多発時(若齢～老齢幼虫)の場合

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期 / 本剤の使用回数	成分 / 成分の総使用回数
その他			
トルネードフロアブル	2000倍	収穫7日前まで / 2回以内	インドキサカルブMP / 2回以内
フェニックス顆粒水和剤	2000倍	収穫7日前まで / 3回以内	フルベンジアミド / 3回以内
プレオフロアブル	1000～2000倍	収穫7日前まで / 2回以内	ピリダリル / 2回以内
プレバソンフロアブル5	4000倍	収穫7日前まで / 2回以内	クロラントラニプロール / 2回以内

詳しくは農業環境指導センター (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>) までお問い合わせください。

Tel(028)626-3086 Fax(028)626-3012